



第1回 論語指導士 上田真士 (大阪府)

1年ほど前から、知り合いのお寺を借りて、親子論語塾をさせていただいています。まだまだ少人数です。コロナ禍にあたり、中断しておりますが、独自に論語テキストを作成して、再開予定です。

提言1) 子罕第九の二十九

「子曰く、知者は惑わず、仁者は憂えず、勇者は懼れず。」

100年に一度のパンデミック。冷静に、なすべきこと、真理を見つめて行動できる人と、パニックになって行動したり、心が乱れたりする人、自暴自棄、自分勝手になる人もいました。

人類が生きている以上、やってくる予期しないウイルス感染の拡大。それでも、ならないようにすることは、決まっていて、それを粛々と行なうだけです。

まさに、惑わず、憂えず、恐れず、粛々とやるだけで、事態は収束に向かいますね。

提言2) 為政第二の十一

「子曰く、故きを温めて新しきを知る。以て師為る可し。」

様々な危機は、人類史上何度も起こっていますね。いくらITが進もうとも人が考えること、行動は変わることはない。古い真理を学ぶことで、今どのように考え、行動したらいいかが見えてきます。

提言3) 子路第十三の一

「子路、政を問う。子曰く、之に先んじ、之を勞す、と。益さんことを請う。曰く、倦むこと無かれ、と。」

政治をするというのは、人民の先頭になって行うことですね。自分の立場や体裁ではなく、人民のために何をすべきかですね。情報を早く集めて、その真理を見極め、早く決断する。

これから政治に携わる人には、ぜひ覚えておいて欲しい詩です。



「加地伸行からの百字答礼」

論語指導士 上田真士様へ。

親子論語塾—いいですね。親と子との絆こそ永遠の人間関係です。すべてはそこから始まります。どうかコロナ禍が鎮まるころぜひ再開をなさっていただけますように。惑わず、憂えず、恐れず、のお言葉通りに。